

提出日： 2023 年 5 月 18 日

## 研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	准教授	菅野洋介

研究期間	以下1~4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2022年4月 1日 ~ 2023年3月31日 2. 2022年9月 1日 ~ 2023年8月31日 3. 2022年4月 1日 ~ 2022年9月20日 4. 2022年9月21日 ~ 2023年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	本研究では、製品デザイン開発にかかわる組織要因が製品開発パフォーマンスに及ぼす影響を明らかにすべく、主に、下記の3つの活動を実施した。第1に、既存研究の整理・検討と製造業企業(自動車、電機、日用品)5社を対象としたインタビュー調査の実施を通じて、リサーチクエストンにかかわる仮説の構築を行った。第2に、日本の製造業企業の中でプロダクトデザインを必要とすると思われる企業約2000社を対象に質問票調査を実施し、405社から回答を収集した。最後に、それらの収集したデータの分析を通じて、仮説の検証や適用範囲を明らかにした。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	本研究では、質問票調査を通じて、日本の製造業企業が、①デザインをどのようにとらえているのか、②製品開発プロセスの各段階にデザイン部門をどのように関与させているのか、③製品開発プロセスの各段階においてデザイン部門とマーケティング部門がどのような相互調整を行っているのか、④組織として製品開発についてどのような志向性を有しているのか、⑤製品デザインにかかわる組織マネジメントをいかにしているのか(トップの関与、評価方法など)、以上に関するデータを収集するとともに、それらが製品開発パフォーマンスとどのような関係にあるのかを明らかにした。さらに、それらはいかなる市場環境の中でいかなる効果をもたらすのかを明らかにした。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	本研究では、質問票調査結果の分析を通じて、以上の内容を明らかにしたものの、期間中、それらを成果として論文にまとめる作業までは十分着手できなかった。今後は、これらの成果を論文にまとめるとともに、学術雑誌に投稿して掲載を目指していく。また、それに併せて、回答企業に対する事後のインタビュー調査を実施することで、変数間のメカニズムを詳細に解明していく。さらに本研究では、社内デザイン(デザイナー)を活用している企業からデータを収集したが、今後は社外デザイン(デザイナー)を活用している企業を対象とした調査を実施することで、それとの比較分析を行う予定である。